

震災後のアルコール関連問題に対するソーシャルワーカーの取り組み
石巻市における日本アルコール関連問題ソーシャルワーカー協会の支援活動報告

日本アルコール関連問題
ソーシャルワーカー協会
被災地支援事業 藤田さかえ

はじめに

東日本大震災発災から4年がたち、被災地ではインフラ整備事業が進みつつあるが、市民の生活が安定するまでには時間がかかることもより明らかになってきている。平成23年の震災以後に、石巻市では地域の援助者がアルコール関連問題に取り組み始めた。地域の援助者は支援者向けの研修、外部の専門家からのコンサルテイションなどを通じ、処遇が難しいとされてきたアルコール関連の問題の対応に力をつけつつある。宮城県石巻市では『日本アルコール関連問題ソーシャルワーカー協会』(以下、ASW協会)が平成23年9月から震災後のアルコール関連問題への介入に取り組み、実績を積み重ねてきている。本稿では平成26年度の活動報告を行い、支援の内容とその成果を述べ、今後の課題を提起する。

1. 事業の目的

本事業は宮城県石巻市において、アルコール問題を抱えた住民のメンタルヘルスと日常生活への支援を行い、地域の援助者に対して必要な知識や情報を提供し、問題を抱えた住民への対応についてケースコンサルテイションを行い、援助職としてのスキルの向上を計るものである。

2. 平成26年度の事業内容

事業目的を達成するために、ASW協会は平成26年4月から平成27年3月まで毎月2回(第2金曜日と第4水曜日)、精神保健福祉士数名を石巻市へ派遣し、以下の7つの支援を行っている。①ケースコンサルテイション、②本人あるいは家族を対象とした相談面接、③仮設住宅等への訪問を行う保健師への同行、④地域関係者との連携会議出席、⑤事例検討会、⑥住民向けの講習会の講師、⑦地域の援助職を対象とした連続講座や研修会企画・運営である。いずれも石巻市健康推進課がコーディネイトを行い、ASW協会はマンパワーの提供を行うという協働体制である。平成26年度の派遣支援会員数は8名だった。内、個別支援に対応した会員は5名、研修の企画・講師として派遣したのは3名となった。

3. 事業の経過とその成果

平成 25 年度から継続して個別支援である①②③④の対象となった支援は以下のとおりだった(図1、2)。対応件数は17件、対応回数は28回、内新規ケースは9件だった。訪問ケースは3件で回数が4回、家族相談は2件で2回であった。コンサルティーションやケース会議のみの対応件数は12件、内ケース会議のみが5件で対応回数は7回だった。ケース会議へは、障害者支援事業所、高齢者福祉事務所、ヘルパー事業所、一般社団法人震災心のケア・ネットワークみやぎ からころステーション、地域福祉サポートセンター、石巻市立病院開成仮診療所、民間支援団体等、市保健師、地域包括支援センターに所属する関係者が出席した。コンサルティーションは15回行われた。

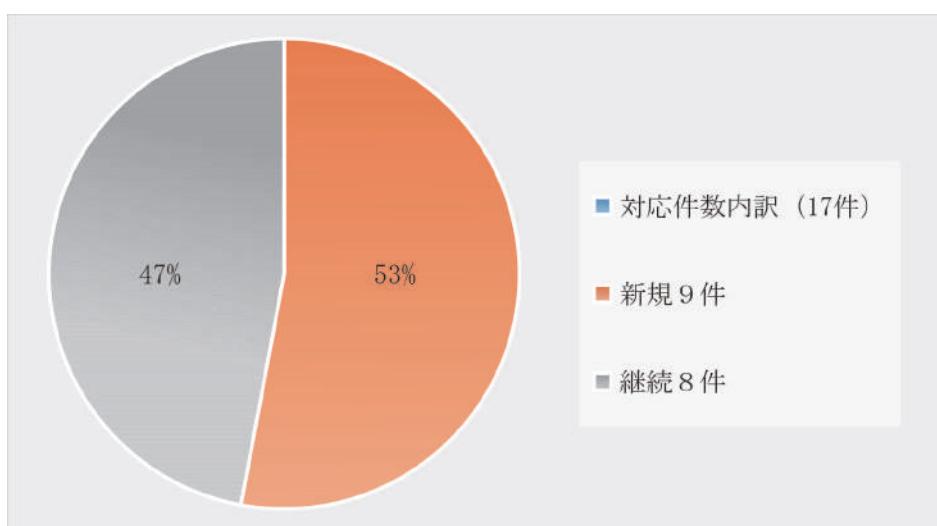


図1 平成 26 年度対応ケース内訳（新規・継続）

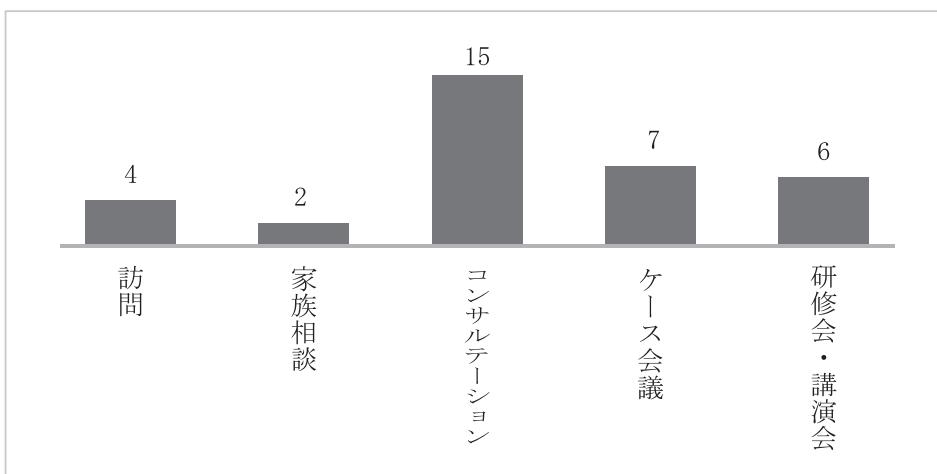


図2 対応件数（支援種類別）28回内訳

平成 26 年度は個別支援を継続すると同時に、地域の援助者を対象とした以下の研修を開催した。

(1) 支援者研修プログラム

平成 24 年度は基礎的知識の習得を中心に研修を行ってきたが、平成 26 年度からは難しい事例に対応するため、具体的なスキルの習得に力点をおいた企画を行った。一方で受講者からは、地域の関係者との連携を構築するための調整方法に関する研修を要望する意見が聞かれた。地域の関係者たちはこれまでの本事業の研修や、震災後に開催されたアルコール問題に関する講演や研修会を通じて問題への理解を深め、取り組むことができるようになったため、平成 26 年度の研修では、個別処遇のための具体的なスキル習得に向けた研修が求められたと考えられる。そういう要望を受けて当協会は計 5 回の研修を企画、開催した。内容を下記に示す。

表 1 平成 26 年度支援者研修プログラム

講義内容	講師	開催日	参加者数
アルコール問題の発見と介入	岡田澄恵 藤田さかえ	平成 26 年 10 月 10 日	30 名
変化に向かうための問題意識への介入	岡田澄恵 岡崎直人	平成 26 年 12 月 12 日	25 名
変化しない人たちへの関わり方	岡田澄恵 藤田さかえ 岡崎直人	平成 27 年 1 月 9 日	33 名
地域連携を考える: ケース会議の準備と運営方法	岡田澄恵 藤田さかえ 岡崎直人	平成 27 年 2 月 13 日	35 名
地域連携を考える: ケース会議の準備と運営方法 ケース会議の実際	岡田澄恵 藤田さかえ 岡崎直人	平成 27 年 3 月 13 日	19 名

(2) 住民向け講演会

保健師からの依頼により、仮設住宅の集会所にて開催された健康教室にて講義を行った。

表 2 アルコール問題 住民向け講演会

講演内容	講師	会場	開催日	参加者数
アルコールとの上手な付き合い方	佐藤光幸	三反走仮設住宅集会所	平成 26 年 12 月 24 日	17 名

4. 平成 26 年度の成果と今後の課題

平成 23 年から継続して行ってきた支援の成果が、年々積み重なってきてていることを感じることのできた一年であった。求められる支援の課題も毎年進化しており、研修の課題もより具体的で専門性の高いものとなった。こういったことから地域の援助者が対応力をつけていることを感じた。この成果の基盤となったものは、アルコール問題に対して『災害後に深刻になる問題』として受け止め、積極的に取り組み始めた地域の関係者の方々が本来持っていた意欲や、援助職としての潜在的な力である。

東北は震災前から人口減少が進行した地域であったが、外部からの支援者である ASW 協会は支援に行くたびに、市民同士や関係者の間に、お互いをよく知り、声を掛け合うような『つながり』を感じていた。これは災害からの復興によって生み出されたものではなく、本来この地域に潜在的にあった力であると思われた。時にはそれが圧力となったり、周囲へ配慮しなければならない抑制となるが、継続した支援の成果が地域の中に確実に浸透していく大きな要因は、こうした『つながり』であると思われた。関係者会議の中でも「アルコール問題は難しいという気持ちはなくなって、自分たちの地域で対応できるようになりました」という声を聞くことができた。

また被災地の要望に応じて研修を企画、準備、開催をする中で練り上げられた講義内容や教材は、被災地だけでなく多くの援助者に一般化できるものとなった。困難を抱えた地域からの要望に応じることを通じて ASW 協会にとっても大きな経験となり、力を得ることができた。

平成 27 年度は個別支援の回数を年 6 回としてコンサルティションを継続し、平成 26 年度に石巻市で行った研修を東松島市と女川町にも対象を広げて行う予定である。アルコール問題に取り組む力を持つてゆくプロセスに関わり続けることが ASW 協会の課題であるといえよう。